



暑さを吹き飛ばせ！

バーンとなるピストル音と同時に駆け出す子どもたち！
賑やかで楽しそうに活動するのは「おたり陸上クラブ」の
みんなです！ 目標に向かってレッツゴー



村会議員選挙～議員のなり手をどう考える～ …②～③

村会議員選挙～議員定数・報酬の検討～ ……④～⑤

6月定例会承認・議決結果 ……⑥

一般質問 ……⑦～⑨

中学校の部活動が変わる！～部活動地域移行～ …⑩～⑪

議会活動報告・表紙のひと・編集後記 ……⑫

《一般質問》

動画配信
はじめました！

 YouTube

議員のなり手をどう考える 村会議員選挙まで 1年足らず

昭和から平成そして令和

時代が変わる！

大きな災害をもたらした平成7年豪雨災害から30年、小谷村も大きく変化しています。その頃は人口4000人を超え、小谷村へ帰ってくる若者も多かった時代です。

あれから30年、時代の変化、少子化、生活基盤の充実、そして、全世界に影響を与えたコロナウイルスの蔓延など、生活環境の変化により、昭和・平成とは大きく異なる時代になっています。

人口は4割減少し、農家数や観光客数も激減している状況です。日本全体における人口減も要因ではありますが、30年前と同じことはできない時代と考えるべきでしょう。

今と30年前、ココが変わった！

	30年前	今	今の数値引用先
人口	4307人	2575人	R7.5月末住民基本台帳による
世帯数	1483世帯	1131世帯	R7.5月末住民基本台帳による
高齢化率	25.2%	36.8%	R7.5月末住民基本台帳による
農家数	745戸	244戸	農業再生協議会資料による
水稲作付面積	205ha	83ha	農業再生協議会資料による
観光客数	169万人	89万人	観光商工係資料による
宿泊施設数	277施設	105施設	観光連盟会員資料による
保育園園児数	110人	59人	教育委員会資料による
小学校児童数	270人	98人	教育委員会資料による
中学校生徒数	132人	53人	教育委員会資料による
消防団員定数	355名	220名	条例による

* 30年前の数値は、村政要覧から引用



議員定数・報酬等調査検討特別委員会を設置！

6月定例会最終日、発議により定数や報酬の調査検討を行う特別委員会設置が提案され全会一致で可決されました。

特別委員会の設置目的

小谷村議会議員定数については、平成18年度に14名から10名へ削減した。現在の人口は、2、621人（令和7年3月31日住民登録者数）であり、平成18年と比較し、約1、100人減少している。状況の変化を勘案し、議員定数の適正について検討する必要があることから調査研究を行うものである。

また、物価上昇、議員活動の負担増そして社会情勢の変化も考慮し、若い世代や女性議員の登用も踏まえ、定数の調査を行う中で併せて適正な議員報酬額に関する調査研究を行うものである。

平成18年に議員定数が14人から10人へ

平成14年に議員定数の検討を行うため、特別委員会を設置し、議員定数を検討しています。他地域の議会の視察やOB議員との懇談を実施しています。結果、平成18年の村会議員選挙から、4名削減し、現在の10名に改めています。

そして、平成25年にも議員定数について、特別委員会を設置し調査検討しています。

他の自治体でも定数割れ、議員のなり手不足が議論されていた時期でありました。

約3年間、調査検討を続け、また、村民アンケートを実施しています。その結果も踏まえ、特別委員会では現状の10人とすることに決定しています。

平成の大合併議論が

されたのは、平成15年、約20年前になります。当時は、大町市を中心とした北アルプスエリアと白馬村と小谷村の2村での合併を検討しました。特に白馬村との合併については、研究検討、そして協議会を設置し、全村民に対しアンケートの実施もしています。結果、合併を選択せずに現在に至っています。

この時期、議会でも定数などの議論をしていました。自立を選択した小谷村が、今後、どのような目標をもつてやっていくのか、議会議員の位置づけも議論しています。

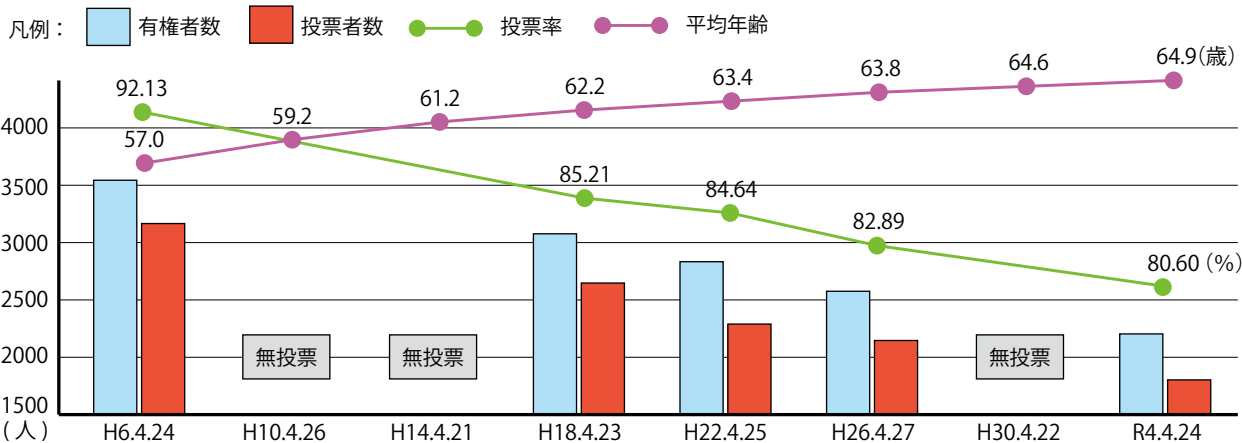


小谷村議会議員選挙データ

執行年月日	定数	立候補者数	当選者年齢				
			40代以下	50代	60代	70代以上	平均年齢
H6.4.24	14	15		11	3		57.0
H10.4.26	14	14		6	8		59.2
H14.4.21	14	14		4	10		61.2
H18.4.23	10	11		3	6	1	62.2
H22.4.25	10	11		1	8	1	63.4
H26.4.27	10	11	1		6	3	63.8
H30.4.22	10	9		2	5	2	64.6
R4.4.24	10	12		2	5	3	64.9

小谷村議会 議員選挙と議員活動

～“やりがい”のある職として～



平成6年以降、8回の選挙を実施し、うち3回が無投票（1回は定数割れ）となっています。

当選者の年齢について、選挙ごと平均年齢が上がっている現状です。65歳定年制や高齢になっても雇用される実態、また、人材不足などが影響しているものと思われます。

ある住民からは、「地域推薦すべきだが、議員候補者の人選に悩む。」との声が聞かれます。

さらに、「若い方をお願いしても断られる。」とのこと。

宮澤議長は、「定数や報酬の議論は、多くの自治体で課題となっている。しかし報酬については、安価だからと容易に上げる訳にはいかない。村民から信用と理解がある議会・議員にならないければ」と意見しています。

Q 議員の定数は適正か？

- ・多い 2名
- ・少ない 0名
- ・現状がよい 8名

Q 議員の仕事内容は？

- ・負担が多い 4名
- ・適当である 4名
- ・負担に思わない 2名

Q 議員報酬は適正か？

- ・多い 0名
- ・少ない 8名
- ・現状でよい 2名

Q 仕事のやりがいを感じるか？

- ・感じる 9名
- ・感じていない 1名

Q 女性議員の登用は？

- ・増えてほしい 7名
- ・現状程度 3名

Q 若手(40代以下)の登用は？

- ・増えてほしい 8名
- ・そうは思わない 2名



Q A

現職議員がこう考える！
やりがいのある議員活動
現職議員へ事前にアンケートをとりました。
アンケート内容と結果は次のとおりです。

議員の仕事は負担が大きいがやりがいはあるとの意見が多く、ただ議員報酬については適正でないとの結果でした。また、女性や若手議員が増加すること期待する意見もありました。

人口・面積の比較

■人口

区分	町村名	人口（人）	議員定数
1	箕輪町	24,330	14
2	軽井沢町	21,725	16
3	下諏訪町	18,615	13
4	辰野町	18,132	14
5	御代田町	16,767	14
16	松川村	9,586	12
17	池田町	9,164	11
21	白馬村	8,427	12
44	小谷村	2,631	10

■面積

区分	町村名	面積（km ² ）
1	木曽町	476.0
2	王滝村	310.8
3	栄村	271.5
4	小谷村	267.9
5	山ノ内町	265.9
11	白馬村	189.4
48	松川村	47.1
53	池田町	40.1

人口の比較では、小谷村58町村中44番目です。最も人口の多いのは、箕輪町の24,330人、少ない人口は平谷村の382人、長野県町村平均は6,942人、小谷村と同規模人口の町村は、小川村、木祖村、麻績村が2,300～2,500人程度です。面積が広いのは小谷村の特徴で、県下町村で4番目にランクされています。

議員の報酬の比較

■議長

区分	町村名	報酬（円）
1	軽井沢町	365,000
2	坂城町	340,000
3	箕輪町	332,000
4	下諏訪町	328,000
5	辰野町	318,000
8	白馬村	304,000
14	池田町	284,100
23	松川村	275,000
35	小谷村	260,000
平均		269,864

■副議長

区分	町村名	報酬（円）
1	軽井沢町	296,000
2	下諏訪町	266,000
3	箕輪町	265,000
4	御代田町	256,000
5	辰野町	255,000
8	白馬村	240,000
18	松川村	210,000
19	池田町	209,400
23	小谷村	204,000
平均		198,440

■議員

区分	町村名	報酬（円）
1	軽井沢町	261,000
2	箕輪町	238,000
3	下諏訪町	237,000
4	御代田町	235,000
5	辰野町	233,000
8	白馬村	216,000
16	松川村	190,000
18	池田町	189,400
22	小谷村	185,000
平均		177,131

議員の報酬を比較してみました。議長の報酬の最高額は、軽井沢町議長の365,000円、小谷村議長は、35番目の260,000円（平均269,000円）です。小谷村副議長は、23番目にランクされ、平均報酬（198,000円）を上回っています。同様に小谷村議員の185,000円は22番目、平均報酬より8,000円程度高水準となっています。人口規模だけで判断すれば、妥当な報酬とも言える結果ですが、それぞれの自治体の特徴や風習、特に小谷村のように集落が多く、生活環境も大きく異なる現状からは、慎重に検討しなければなりません。



現在全国の議会では、議員報酬の見直し議論がなされています。「報酬が安い！」「生活できる金額でない！」などの声がよく聞かれます。ここでは長野県の58町村の状況を比較してみました。なおデータ等は、令和6年度町村議会実態調査の数値を引用しています。

議員報酬の課題も！ 長野県58町村を比較



議員定数・報酬を検討！ 村民の意見を参考に！



議員定数・報酬等調査検討特別委員会（委員長 柴田友造）では、来年5月に改選される村議会議員の選挙を考慮し、定数と報酬を検討しています。

人口が減少する中、議員の必要数は？

年々人口が減少する小谷村。議員定数の10人は適正なのか？委員会内でも様々な意見が出されました。

●集落が多い中、これ以上の議員削減は村民の声を聞き取れない！

●人口規模での判断は、小谷村の実情から望ましくない。

●地区によっては、議員候補者の確保が困難。

●若い人に担ってほしいが、まだ仕事している。

それぞれの立場で意見が出されました。他の議会の事例から、議員定数を削減する理由の多くは、財政面

が上げられています。財政状況が厳しいことで、議会予算の見直しからの定数減となっています。

議員活動の多様化から、議員報酬は安いのか？

現職議員の意見では、現行の議員報酬が安いのではと意見されています。

そもそも、議員報酬とは何か？議員報酬とは、議員の役務の提供に対する給付として支給されるものです。

議員の役務は、議員が果たすべき職務や役割があります。具体的には、議会での議決や審議への参加、行政活動の監視やチェックなどが含まれます。そして最も村民が求めることは、住民の代表として、住民の意見や要望を把握し、それを議会や行政に反映させる役割を担います。住民とのコミュニケーションから調査研究を行い、よりよい地域社会を築くため、議員は活動しなければなりません。

その活動の対価として議員報酬がありますが、「報酬は生活給ではない！」との意見はありますが、若手層の参入を促すためには、適正な水準である必要もあります。

活発な行政・議会にするために！

議員定数・報酬の課題を



適正な議員定数・報酬は？

挙げていますが、議会議員そのものの活動の見直しとの意見もあります。

今回の特別委員会の議論では、村民の声を聞くべきという意見も提案されています。

定数と報酬、まずは、村民アンケートにより、意見を伺うことに決定しました。内容等を検討し、村民の皆様にお伝えしますので、ご協力をお願いします。

議員定数・報酬等調査検討特別委員会

委員長 柴田友造

議員のなり手不足は、この自治体も課題です。

4月の白馬村議会選挙では、定数割れ、また他の自治体でも若者が議員になりやすいように報酬を上げる事例もあります。

次期選挙も見据え、議会としての様々な視点から調査し村民の意見を尊重した検討をしていきたいと思ひます。



特別委員会委員長に互選された
柴田議員

6 月定例会承認・議決結果

◇ 6 月定例会 承認・議決結果

議案番号	件 名	審 議 結 果
報第 4 号	令和 6 年度小谷村一般会計補正予算（第10号）の専決処分報告	承 認
報第 5 号	令和 6 年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第 5 号）の専決処分報告	承 認
報第 6 号	令和 6 年度小谷村健康保険診療施設特別会計補正予算（第 6 号の）専決処分報告	承 認
報第 7 号	令和 6 年度小谷村後期高齢者医療特別会計補正予算（第 2 号）の専決処分報告	承 認
報第 8 号	損害賠償の和解並びに額を定めることの専決処分報告	報 告
報第 9 号	売買契約締結（除雪ドーザー 11 t 級1台購入）の専決処分報告	承 認
報第10号	令和 6 年度小谷村一般会計繰越明許費繰越計算報告	報 告
報第11号	令和 6 年度小谷村簡易水道会計予算繰越計算書の報告について	報 告
報第12号	出資法人の経営状況報告（株式会社道の駅おたり）	報 告
報第13号	出資法人の経営状況報告（株式会社おたり振興公社）	報 告
報第14号	令和 6 年度小谷村教育委員会事務事業の点検及び評価報告	報 告
議案第27号	小谷村税条例の一部を改正する条例について	可 決
議案第28号	令和 7 年度小谷村一般会計補正予算（第 2 号）	可 決
議案第29号	令和 7 年度小谷村下水道事業会計補正予算（第 1 号）	可 決
議案第30号	小谷村保養センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	可 決
議案第31号	売買契約の締結について（小谷小中学校タブレット端末の購入）	可 決
議案第32号	教育委員会委員の任命について	同 意

◇ 議員による発議

発議番号	件 名	審 議 結 果
発議第 3 号	議員定数・報酬等調査検討特別委員会の設置について	可 決



しばた ゆうぞう
柴田 友造 議員

動画はこちらから ▼



『人間と自然がともに暮らす小谷』 ユネスコエコパークになる！

文化財について

(従前の答弁に対するその後
の対応について質問)

問「村内10ある登録有形文化財の補助金支援について研究する」その後の対応は。

答教育長 所有者の自主的な保護活動が基本。税制面での優遇措置があるが、新たな支援は考えていない。

問「神社本殿拝殿の歴史ある建物に対し、維持・支援策の具体案は、持ち合わせていない」その後の対応は。

答教育長 神社本殿拝殿の維持管理を村が支援することは難しい。

全国草原サミット

「小谷宣言」について

問「草原に関わる全ての人々と連携し、茅場など希少な草原の環境・文化を守り保全することに努める」との宣言に対して、どう保全していくのか。

答村長 子どもたちが茅文化に興味を持つ事業や茅刈

りなどの体験を通じて関係人口が増えていく取り組みが必要と考える。

ユネスコエコパーク登録について

問豊かな自然と伝統・文化・産業を調和した「人間と自然が共に暮らす小谷」として、ユネスコエコパークの登録は。

答村長 登録は意義があると考え、村単独若しくは広域連携での登録もあり、多くの課題もある。慎重に議論を重ねる。



文化4年(1807) 建立 大宮諏訪神社



そねはら けいこ
曾根原恵子 議員

動画はこちらから ▼



農地を本気で再生 多様な担い手支援と営農環境の充実を！

問米価上昇が社会問題となっているが、農家が潤うどころか、生産がおぼつかない。村の生産者数と食糧自給率を維持するための目標は。

答観光地域振興課長 地域計画では現状維持を掲げている。

問農家数、食料自給率の目標が必要ではないか。

答観光振興課長 真剣に考えていかなければならない。

問離農の原因は単に高齢化だけではない。継続して耕作できる環境や条件作りが必要だ。

答村長 中山間地では条件的に高い収益が得られない環境であるが、水路の改修など環境整備・条件整備に努める。

問農業継続のために農機具購入支援は不可欠であるが、新規・中古を問わず営農機械購入に支援を。また、電気柵設置支援補助金も事業費80%の支援を。

答村長 高額である営農機械や電柵を導入する困難さ

は理解している。他の自治体の事例も参考として考える。

問米作りで村内の人々を呼び込む政策はあるのか。

答村長 現状では政策をもっていない。しかし村内では、棚田オーナー制度を実施するなど参考にすべき事例もある。

問現在のコメ不足の課題について、村長の見解は。

答村長 コメ政策は国が主導していくべき。国は力強い方向を示してほしい。



村内では棚田オーナー制度が継続されている。



ふかさわ ひでき
深澤 英喜 議員

動画はこちらから ▼



過酷な除雪作業 労働環境は十分ではない！

問 除雪経費、令和6年度は。
答 村長 見込んでいる支出額は4億2500万円である。(昨年2億8000万円)
問 除雪に関する委託料や賃金の基準は。

答 村長 業者に対して除雪を全面委託する場合は、除雪ドーザー・ロータリー除雪車が、1時間あたり2万7800円から4万9000円、直営オペレーターが除雪する場合は、1時間あたり4200円から4900円の設定。国や県の労務単価などの基準で単価設定している。
その他、塩カル散布作業や、村所有除雪機械を貸し付けての除雪など、条件に応じて単価設定をしている。
問 オペレーター労働環境については。
答 建設水道課長 休息時間の確保や日労働時間の上限などは、除雪業務の実施要領の中で定めているが、十分な労働環境であるとは考えていない。



過酷な労働である除雪作業

問 除雪機械更新に伴い、購入基準と維持管理について。
答 建設水道課長 耐用年数など考慮し必要に応じ随時更新している。
維持管理は、定期的の検査時によって、不具合があった場合はその都度修繕する。
問 除雪による村道などの破損した場合の対応は。

答 建設水道課長 応急補修のほか、村単独事業による工事発注などで適宜対応する。
問 排雪場所の確保について、事前に住民と協議しているか。
答 村長 柵池高原や白馬乗鞍地区は、シーズン前に意見交換を実施している。その他の地区はオペレーターが対応している。



あいざわ みのる
相澤 稔 議員

動画はこちらから ▼



雨中月岡バイパス 合流箇所には万全な安全対策が必要！

問 4月25日のバイパス説明会において、現道とバイパスの合流箇所の整備計画等の説明があった。安全対策について村の考えは。

答 村長 現道とバイパスとの合流箇所の安全対策については信号機の設置を検討した経緯はあるが、特に冬のスリップや追突事故の懸念、また信号停止による騒音の問題などを考慮し当面、信号機は設置しないの方針になった。

問 現道からバイパスに合流する箇所に信号機の設置を望む意見が多い場合は改めて検討して対応してもらうか。
答 建設水道課長 地域の話し合いの場に出席して、意見を伺いたい。それらを踏まえて対応などを検討する。

への案内標識は欠かせないが。
答 村長 役場や南小谷駅方面への案内標識の設置などを要望していく。

問 今後、バイパス工事において片側通行規制が始まるが、安全で円滑な交通を確保するためにも誘導員を終日、配置すべきではないか。
答 建設水道課長 信号機による規制と聞いているが、誘導員の配置は把握していない。状況把握し、県に伝えていきたい。



雨中月岡バイパス、安全に合流できる対策を要望



移住希望者が増加 住宅供給不足は大きな問題！



閭村内への移住希望者や物件を探す人が増えているなか、村内の空き家物件、空き家バンクの登録状況は。

答 閭村長 令和5年度に、村内全域の調査を実施。約220戸の空き家物件を確認した。うち居住可50戸、修繕後居住可50戸、居住不能等が120戸であった。令和6年度における空き家バンク登録数は11戸。令和5年度は5件。

閭移住希望者の状況は。

答 閭村長 令和6年度中に、小谷村へ移住し、空き家バンクと定住住宅取得支援補助金を申請された方は、5名の実績がある。

閭移住希望者のニーズは。

答 観光地域振興課長 アンケート等によれば、売買でなく賃貸希望が多く、スキー場近くを希望する人が多い。

閭移住・定住促進住宅の状況について。

答 観光地域振興課長 現在、村内に4戸あり、すべてが入居中。また、本年度土谷地区に1棟を新築予定である。

費用対効果の検証は。

答 観光地域振興課長 移住定住促進住宅は、所有者と10年の使用貸借契約となっている。

家賃収入で、修繕費など投資した費用を補うものである。十分、費用対効果は見込める。



柵池村営住宅、安価な家賃とスキー場への隣接が人気の秘訣



村民との対話 道路事情の要望や意見！緊急性がある！



閭就任から1か月経過したが、副村長が村民と対話した内容と感じたことは。

- ① 道路・河川等建設
② 観光 ③ 福祉 ④ 農林業

答 副村長 ①の建設関係では、「松本糸魚川連絡道路」の早期整備についての対話が多かった。国道148号線は、この地域の生命線で、災害に強く安全である道路整備は極めて重要。また、外沢トンネルは地盤が脆く、現在も変状が続いているため、代替え路線確保は緊急性の高い課題である。

②の観光関係では、3スキー場を繋ぐ道路整備の課題がある。また、外国人の経営者が増加していることでの、地域コミュニティーの形成の課題を指摘されている。

③の福祉関係では、高齢者や障がい者に対応する事業者の不足を指摘された。

本年度設置の「地域活動支援センター」の活動もあ

るが、更なる普及や支援を考えなければならない。

④の農林業関係については、まだ十分な対話ができていない。

閭雨中・月岡バイパス完成後の現国道の管理について考えは。

答 副村長 現国道に設置されている「無散水消雪施設の維持について」は長野県で管理する要望を引き続き働きかけていく。



緊急性のある外沢トンネル（L=1360m 昭和49年完成）

中学校の部活動が変わる！ 部活動地域移行で どうなるのか？

部活動の地域移行とは？

この3月、小谷小学校を卒業する児童のインタビューがケーブルテレビで放送されました。インタビューの「中学校では何をしたい？」との質問に、「中学校では部活動を頑張りたい！」



一生懸命部活動に励む中学生。令和8年度から改革される。

と答える児童が多かったです。「中学校Ⅱ部活動」の方式が、今、大きく変わろうとしています。それが「部活動の地域移行」です。

これまで部活動は、中学校の教員が指導してききましたが、令和8年度から、地域のクラブ・団体などに移行することとなります。

これは、少子化や教員の働き方改革により、部活動を学校内でなく、地域での活動に変えていこうとする動きであり、国主導で進められているからです。

これは、少子化や教員の働き方改革により、部活動を学校内でなく、地域での活動に変えていこうとする動きであり、国主導で進められているからです。



部活動の現状は？

小谷中学校は、現在、スキー部、陸上部、吹奏楽部の3部が活動しています。かつては、男女バレー部や野球部など団体競技の部も存在していました。現在も多くの生徒が入部し、活動しています。

そして、小谷村でも多くの地域活動クラブが存在しています。これが『総合型地域スポーツクラブ』と称し、年齢や運動レベルに関わらず、様々なスポーツを気軽に楽しめるよう、地域主体で運営されるスポーツクラブのことです。現在、ダンスやヨガ、水泳など小中学生対象が8クラブ、全年齢対象が9クラブ存在しています。部活動から地域型クラブへ、子どもたちの学校生活にどんな影響があるのか、現場の意見を聞いてみました。

部活動が地域移行へ ～総合型地域スポーツクラブの動き～

部活動が廃止され、受け皿となるのが、『総合型地域スポーツクラブ』です。大きな自治体では、すでに民間での動きが進んでいます。小谷村のような小さな自治体は課題があります。

『総合型スポーツクラブ』は、子供から大人までの生涯スポーツ活動であり、中学生の部活動の代替えとなるのは厳しい。」と話すのは、事務局の宮嶋朱美さん。宮嶋さんは水泳の指導を行う立場でもあり、村全体の状況を鑑みて不安もあるそうです。特に懸念しているのは【指導者の不足】

とことです。「今、子どもたちの指導者は保護者が多い。保護者がいつまでできるか？」という不安があるそうです。さらには「クラブの指導者としてのコーチングの研修やリスク管理の知識の取

得は必要、活動中の事故など責任問題が心配。」とのこと。

地域スポーツクラブへ移行することは、机上では簡単であるが、現在のスポーツクラブの目的と体制、そして、部活動と異なる点などを、教育委員会や学校側と協議し、体制整備が急務とのこと。



地域型スポーツクラブの様子
週1回の陸上クラブ 保護者が協力して指導



部活動の地域移行は、児童・生徒に身近な先生たちも困惑しています。学習指導や生活指導だけでなく、部活動の指導も夢見て教員になった先生も多くいます。この部活動の廃止の影響と今後について現場の先生の声を聞きました。

「部活がなくなってしまう！初めて聞いたときは衝撃的なことばでした。」と語るのは小谷小学校の和田先生です。「部活廃止はとてもインパクトがありました。教員になった理由の1つに部活動の指導もありました。」

部活動の廃止は3年ほど前から議論されていた内容とのこと。和田先生は、「今の小学生は、中学校で部活動がないことを知っているだろうか？」と不安もあるそうです。



小谷小学校
和田先生

バスケットボール選手として国体に出場し、教員として運動部の指導経験のある柳沢先生は、「部活動が廃止されても、専門の指導を必要とするならば、教員として何らかの形で指導は可能と聞いています。」柳沢先生は、自らの経験を伝えたいとの思いから、部活動の指導にはより強い気持ちがあります。「子どもたちへの部活動の指導はやりたいです。」と教師としての思いを語ってくれました。



小谷小学校
柳沢先生

生徒の気持ちを

大事にしたい！

小谷中学校で陸上部の顧問を務める小山先生。前任校では経験のあるサッカー部の顧問でした。「部活動の指導は時間的にはとても大変だが、充実はしていた。」とのこと。今の陸上部の指導は全く専門知識がなく自分だけで指導することはとても厳しい状況でしたが「外部指導者が関わってくれて、自らも勉強しながら、楽しく指導しています。」外部指導者の存在の大きさを感じているそうです。「大会に出たい！」「そんな生徒が多く、この気持ちは何とかしたいとのこと。」

部活動が地域活動へ

～見直される環境～

現在、中学校の部活動はほとんどが学校や教員が担っています。和田先生は、「特に中学校のスポーツ環境を見直す必要がある。」とも意見しました。

「どう地域と自治体が協力して、子供たちに活動する環境を与えられるか？課題は多いが、いずれ子供たちの学ぶ環境の充実につながるかもしれない。」

和田先生は、地域活動への移行が新たなステップになることを期待していました。

部活動は、野球やサッカー、バレーボールなどをイメージしてしまいます。「人気のあるスケボーやダンス

などは部活のイメージないですよ。」地域移行されるスポーツクラブでは、様々なことができる環境の創出を願っているそうです。

宮嶋さんも「小谷村の総合型スポーツクラブが、いろんな活動ができる体制にできれば。競技だけでなく、元気に暮らす、楽しく生活する基盤になつてほしいと願っている。」とのこと。

小谷スタイルで いいんじゃないか

学校施設を地域活動に有効に利用することも必要です。そして小谷村がまず地域スポーツのあり方の方向性を提示し、それに対して、地域や保護者、教員を交えて、目指す体制や方向性を話し合うことも大事です。今後どう創り上げるか。小谷村らしい活動を期待します。



小谷中学校
小山先生



高付加価値のある観光へ

～訪日外国人増の対話～

5月28日、正副議長が観光庁を訪問し、河田経営戦略課長と懇談を行いました。令和4年から3年間取り組みだ高付加価値化事業の報告と成果、また活発なインバウンド観光についての意見交換が目的です。宮澤議長は、成田からの移動のレンタカーの雪国仕様の徹底について、柴田副議長は、地域にある文化財や伝統行事の観光活用について意見しました。「観光地を活性化することが、国の目標。補助事業も活用し盛り上げて欲しい。」と河田課長の意見です。



観光庁 河田課長との対談

企業とのコラボがカギ

～企業力を小谷に～

アパレル大手の企業「株式会社ユナイテッドアローズ」の本社を、正副議長が訪問しました。地方創生、地域活性化に向けて企業と手を組み、企業の想像力を活用する自治体が増えています。アパレル業界の創造力と小谷村の素材がどのようにコラボできるかを懇談してきました。ぼろ織りやわら細工の「ファッション」としての活用が提案されました。



ユナイテッドアローズと小谷村が提携できるか？

日々の成長が感じられる！



表紙のひと 北村綾香さん（大網）

「さあ、アップでグラウンド2周いくよ！」放課後の小谷小学校のグラウンドでは元気な声が聞こえてきます。今年4月からスタートした陸上クラブを指導する北村さん。

「陸上の指導は夢だった。子どもに楽しさを教えたい！」と目を輝かせていました。北村さん自身もケガにより競技生活を断念した経験があり、基本動作を忠実に練習に取り入れ、ケガをさせない指導を徹底しています。

「走ること、跳ぶこと、投げること、子どもたちが毎週一歩ずつ前へ進んでいく！そんな姿が楽しいし、大会で悔しがる姿から成長も感じています！」

練習や指導には、保護者も協力していました。「みんなが協力してくれる。」北村さんは保護者や先生が連携することの感謝も忘れません。子どもの成長を信じて、元気に楽しく指導する一場面でした。



編集後記

長野県は移住したい都道府県では上位の方に入っているようです。

小谷村はどうか、今回は「チャットGPT」を使って聞いてみました。

質問 小谷村への移住は？

AIの回答は、
メリット

- ・空き家バンク制度が充実。
- ・農業、林業に挑戦しやすい。
- ・保育料や給食費の助成あり。

デメリット

- ・冬は豪雪地（雪かき・雪道の運転など負担大）
- ・日常の生活に車が必要。
- ・買物へのアクセスには距離がある。

なるほどの回答でした。そのほか「文書を直す」なども使ってみました。

今後、さらにAIは普及していく時代。うまく活用し、豊かな生活に！

（広報委員 深澤 英喜）